
オオカミ少女と嘘

はちすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オオカミ少女と嘘

【NZコード】

N8428X

【作者名】

はぢすけ

【あらすじ】

『オオカミ少女』はやさしい子だったんですね。

だから、

嘘つきにされてしまった。

そんなオオカミ少女の恋のお話。

皆さんには『オオカミ少年』といつ物語を知っていると思います。

羊飼いの少年が、

「オオカミが来たー。」と何度も嘘をついたために、本当にそれが真実になつた時には、誰にも信じてもらえなかつた。

といつお話をしたね。

そんな私は、

”オオカミ少女”と呼ばれています。

オオカミ少女は、初めは普通の女の子でした。

普通に友達がいて、恋をして、それなりの楽しい暮らしがしていました。

そんなある日、

オオカミ少女は友達に

「Iの手紙を＊＊＊くんに渡してくれない？」と頼まれました。

オオカミ少女は、友達思い。だから、すぐに渡しに行きました。

だつて、その男の子は友達の好きな人だつたから。

わつと、告白するんじゃないかと、思つていました。

次の日

学校に行つてみると、その男の子から言われました。
「なんで、昨日来なかつたんだよ。」と

オオカミ少女は訳が分かりませんでした。
だから、どういうわけかと、聞いてみると、

「昨日の手紙に、放課後に話すことあるつて書いてただろ。お前が。

」

ということでした。

手紙は、友達から頼まれたもので、
昨日は特に話すことがなかつた。と

その男の子に話しましたが、

なにぶんその友達自体が今日学校を休んでいるので、
事情が聴けず、

そのほかの友達にも聞いてはみるもの
あまりいい返答は帰つてきませんでした。

それからは、なぜか少女の伝えることすべてが裏田裏田に。
あとから、考えればすべて友達の”嘘”を伝えているのでした。

そして信じてもらえなくなつた、

オオカミ少女は、

今までについたことのない大嘘をつきました。

「私、あなたの方が大嫌い。」

大好きな子に。きっと伝わらないだろう。

それも嘘と言われ、

軽くあしらわれて信じてもらえないだろう。

でも、

今日は

嘘の日。

四月一日。

私は、大嘘つきの
”オオカミ少女”

(後書き)

初小説なので、せつとおかしなところがあつたと思ひます。
書いてて混乱してるのは自分がいましたから。

ここまで、私の『オオカミ少女』を読んでくださつて、
ありがとうございます。
よかつたら、コメントと評価していただけすると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8428x/>

オオカミ少女と嘘

2011年10月23日08時23分発行